

# 市長新年あいさつ ～多様な連携による 「心が通う便利な田舎暮らし」の 実現に向けて～



舞鶴市長  
多々見 良三

あけましておめでとうございます。  
皆様におかれましては、清々しく希望に満ちた「新春」をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、元号が「令和」に改元され、新たな時代が幕を開けた年であり、舞鶴市においては「ひと・まちが輝く未来創造 港湾都市MAIZURU」を都市像に掲げる第7次総合計画をスタートさせ、次なる時代への歩みを始めた年でした。

第7次総合計画が目指すまちづくりは、本市の豊かな自然、連綿と引き継がれてきた歴史・文化、少し足を延ばせば都会にも行けるという立地性を最大限に生かし、定住人口10万人規模のまちの賑わいを確保しながら、新たな技術を導入した未来型のスマートなまち「心が通う便利な田舎暮らしができるまち」です。

これは、先進技術を単に効率化などに活用するのではなく、人と人とのつながりや助け合いを促進する新しい仕組みづくりに生かし、人々が助け合って生活するコミュニティの良さを維持しながら、便利で心豊かに暮らせるまちの実現を目指すものであり、この熱い思いが、今、地域に広がっていると感じています。

青井地区では、地域の皆さんを中心に、城北中学校区地域支援協議会、城北中学校、福井小学校の皆さんが、フジバカマを地域の宝物として育てていこうという取り組みを通じて、次代を担う子ども達に地域への誇りや愛着を伝えておられます。

また、中舞鶴小学校5年生の皆さんが、総合学習で地域の歴史を学び、昔のような活気を取り戻そうと、和南海岸の清掃活動などを行い、地域の皆さんと共に藤の森公園の再生に取り組み「藤の森まつり」が開催されました。代表児童からは「舞鶴を笑顔あふれるところにしてほしいという思いで取り組んできました」との挨拶を聞き、子ども達の地域を思う心に胸がいっぱいになりました。

昨年10月に開催された「平和祈念式典」では、戦後、旧大浦中学校の生徒が舞鶴港へ引き揚げてこられた方を出迎えた時に歌っていた「引き揚げ者を迎える歌」を若浦中学校の皆さんが復活させ、合唱を披露いただき、歌を通じて、引き揚げの史実と舞鶴の温かい真心を次世代へとしっかりつないでくれました。

南舞鶴地域では、青葉中学校美術部の皆さんが、今年50周年を迎えられた南福祉協議会の新しい団体旗をデザインされました。考案した生徒たちは、自分たちの考えた団体旗が、将来の南舞鶴地域を象徴するものになることに、誇りと責任を感じていると話してくれました。

私は、このような取り組みが今後さらに広がり、地域の持続的な発展、舞鶴の「元気」につながるようなまちづくりを、市民の皆さん、市内事業所の皆さん、産官学金労言士など関係機関・団体の皆さんと共に、多様な連携による、まさに「全員野球」で、持続発展させてまいりたいと考えています。

今後とも、この素晴らしい舞鶴を、次代を担う子ども達によりよい形で引き継げるよう、本市が担っている国防や海の安全、エネルギー拠点としての重要性、また、豊かな地域資源や、連携の輪といったものを、正しく理解し、触れる機会をさらに増やすことで、地域への誇りや愛着を育むことをはじめ、舞鶴で学び、働き、夢を叶え、暮らせるまちづくりを推し進めると共に、先進技術などを積極的に導入し、人と人とのつながりの部分を重視する中で、真の弱者を周りが支え合う「心が通う便利な田舎暮らし」の実現に邁進してまいりたいと考えておりますので、本年も変わらぬお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

年頭にあたり、市民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。